

本調子

○	
○	
合	な
四	も
中	し
上	ら
○	
合	ぬ
○	
○	
合	と
上	お
尺	き
中	し
○尺上	まよ

老	り
四	な
○	
上	が
中	れ
尺	よ
○	
中	る
四	や
合	し
○	
四	の
中	み
上	ひ
上	と
四	つ

○	
工	ふ
○	
王	る
中	さ
上	と
四	の
中	き
工	し
中	を
四	は
○	
中	な
四	れ
上	て
中	な
尺	れ

○	
尺	は
中	そ
上	も
四	な
中	み
上	に
工	い
合	く
○	
上	っ
○	
四	き
○	
○	
○	

工	○
王	中
上	
四	
中	
工	
中	
四	
○	
中	
四	
上	
中	
尺	
○	

尺	
中	
上	
四	
中	
上	
工	
合	
○	
上	
○	
四	
○	
○	
○	

椰子の実

本調子

2/2

一、名も知らぬ 遠き島より
流れ寄る 椰子の実一つ

故郷（ふるさと）の岸を 離れて
汝（なれ）はそも 波に幾月（いく
つき）

二、旧（もと）の木は 生（お）いや茂
れる
枝はなお 影をやなせる

われもまた 渚（なぎさ）を枕
孤身（ひとりみ）の 浮寝（うきね
）の旅ぞ

三、実をとりて 胸にあつれば
新（あらた）なり 流離（りゆうり
）の憂（うれい）

海の日 沈むを見れば
激（たぎ）り落つ 異郷（いきよう
）の涙

思いやる 八重（やえ）の汐々（し
おじお）
いずれの日にか 国に帰らん